

生きがい情報士通信

発行／(財)健康・生きがい開発財団

<http://www.ikigai-inf.com>

Vol.13 2008.2

Contents

1. 生きがい情報士活動報告会(東京)
2. 生きがい情報士活動報告会(大阪)
3. アラカイネット紹介
4. 生きがい情報士の活動事例
5. 教員研究集会のご案内
6. 講師養成研修会のご案内
7. お知らせ/これからの予定

生きがい情報士活動報告会(東京)



生きがい情報士のネットワーク化を!

鈴木 孝典 さん

2002年3月

埼玉福祉専門学校介護福祉科卒

社会福祉士

社会福祉法人 彩光会

身体障害者デイサービスセンター

あけぼの 勤務



情報収集が、患者さんを的確に援助するための鍵

専門学校卒業後、現職に就く前、2つの病院で医療ソーシャルワーカーとして働きました。そこで、一番求められていたのは、退院援助です。急性期の医療が終了して医師が退院許可を出しても、たとえば、杖歩行であったり、寝たきりであったりする場合は、次にその患者さんが、どこにいけばよいのか、どういう方向性があるのかを、私たちが介入して進めていかなければなりません。

そのとき、常に情報を収集し、地域の社会資源を把握しておかないと、患者さんを的確に援助することはできません。

情報士の資格の生かし方がわからなかった

正直なところ、情報士の資格を仕事の中で、どのように生かせばよいのかわからなかったです。また、同じ資格を持っている人が、どういう分野で活躍しているのか明確ではなかったので、情報士を通じて情報を取ったことは、ほとんどありませんでした。

今後、情報士の母体が大きくなりネットワークが広がれば、やみくもに情報を得るのではなく、おのずと情報が入ってきて、さらに視野が広がると思います。

利用者の明日からの活力になるような支援をめざす

現在は、デイサービスセンターでの相談員として、介護を中心とした業務をしています。情報士として、施設に来られる方が、明日からの活力となるよう支援することを意識して、毎日仕事をしています。

そのためには、利用者が飽きてしまわないプログラムを提供することが必要です。うちの施設では月ごとのプログラム担当者がいます。11月は私の担当で、クリスマスリースを作りました。

最近、利用される方から、「デイサービスにくるのがすごく楽しい」と言われたのがとてもうれしかったです。

どの現場でも、「情報」を得て、はじめて仕事ができる

社会人6年目。どの現場でもいえるのは、必要な情報を得ることができてはじめて仕事ができるということです。

今後、情報士の資格を持つ人が増え、ネットワーク化することができれば、この資格をもっと活用し、ネットワークを自分の武器とすることができると思います。

社会福祉法人 彩光会
身体障害者
デイサービスセンター
あけぼの

鈴木 孝典 氏
社会福祉士

【1日のスケジュール】

- 8:30 送迎開始
- 10:00 朝の会
健康チェック(体温、血圧、脈拍)
入浴または自主トレーニング
- 12:00 昼食、談話、休憩
- 13:30 椅子体操
レクリエーション活動、創作活動等
※リハビリ 第2、4 月曜
第1、3 火・金曜日
- 15:30 おやつ、ティータイム
備忘録
- 16:10 帰宅送迎開始(入浴、食事、送迎は有料で選択サービスです。
※年に数回、外出行事、季節行事等があります。



高齢者が、「生きがい」や「楽しさ」を見つけられるお手伝いをしたい



斉藤 恵子 さん

2003年3月
埼玉福祉専門学校 社会福祉科卒
介護福祉士
ケアパートナー株式会社
ケアパートナー草加 勤務

ケアパートナー株式会社
ケアパートナー草加
生活指導員



地域の情報が不足している

私の職場には、1日平均21人の方が通ってこられます。介護が必要な方は15～16人、要支援の方は5～7人くらいです。要支援の方には、グループ活動として、パソコンやお琴など趣味的なことに取り組んでいただきたいと考えています。しかし、スタッフが限られているため、要介護の方に時間がとられ、要支援の方には力を注げないのが現状です。

社会福祉協議会などを通じて、パソコンなどの趣味活動を教えていただけるボランティアを探しても、なかなか見つからないです。そこで、近隣から来られている、パートタイマーさんをお願いして、地域の情報を得ている状況です。やはり、地域に強い人材が必要です。

生きがい情報士の資格は、 予防サービスのお客様にこそ 生かしていきたい

今、介護保険は、予防の人（要支援者？）が厳しい内容になっています。

たとえば、デイサービスでは、要支援1の方は週1回、要支援2の方は2回きてもらっていますが、今後、一律1回になります。

ですから、週1回来ていただいたときに、自宅で残りの週6日を楽しく過ごしていただけるお手伝いができるよう、趣味的な活動を提供できればと考えています。

資格の活用方法が イメージできる授業づくりを

仕事を行っていく上で、情報収集は必要ですが、それに時間をかける余裕はありません。情報士の資格も、これまでは、うまく活用できていない状況です。

もし、専門学校時代に、資格がどんな現場で、どのように使えるのかということが授業などで実感できていたら、もっと活用できていたかもしれません。

また、情報士のサイトでは、情報士の資格を持っている人が分野別に詳しくわかるようになっていたり、情報士同士の情報交換がオンライン上でできるようになればいいと思います。

パネル ディスカッション

生きがい情報士に求められる情報提供とは？ ～生きがい情報士教育の効果～

中村先生 中村 聖之 東京スポーツ・レクリエーション専門学校スポーツインストラクター科 学科長

- ・2008年4月から保険者に対して、健診・保健指導が義務付けられるのを受けて、各保険者は、これらの業務を民間事業者へ業務委託する動きがあります。
- ・高齢者指導員・介護予防運動指導員の養成が企業では盛んになり、パーソナルトレーナーの活動も活発になってきています。
- ・スポーツインストラクター科では、課外授業として、千葉県いすみ市のふれあい会館で、50～70歳代の女性との会話と運動の教室を行っています。
- ・高齢者は、脚力の低下などから、住んでいる町内や市区町村内といったふうに活動の範囲が狭くなる傾向にありますが、スポーツクラブなどを通してスポーツする人は増えています。
- ・ライフプラン作成の一環として、予防のためにも、運動を中心とした生きがいを、利用者さんと一緒に見出すことのできるインストラクターの養成をめざしています。

斉藤先生 斉藤 哲也 埼玉福祉専門学校 社会福祉科 学科長

- ・情報士の資格は、2年間120時間かけて勉強します。学生たちのモチベーションをアップできるような仕掛けを作っています。たとえば、情報士の資格を生かした仕事のイメージづくりができるきっかけになるような講演会への参加や、グループワークなどを通じた支援計画作りなどを行っています。
- ・情報士の教育的な効果としては、13の指定科目の中で、どうしても教えきれない内容を情報士の授業でカバーできることです。また、

実際の事例を使って、ニード分析・情報収集・プラン作りなど、トータルワークの疑似体験をし、卒業後の仕事のイメージを明確につかむことができます。

高平先生 高平 敦 東京医療専門学校 医療秘書科 学科長

- ・15～16年前に比べて、現在75歳以上の高齢者は2倍に増えています。今後、超高齢化社会になり、学生が40歳になったころには、高齢者の割合が40～50%になります。
- ・退職後や病後に、自分の生きがいについて考えていかなければならないケースがでてきます。そのとき、情報士の資格を持っていると、アドバイザーとして活躍する場面は必ずでてくと学生たちに動機づけしています。

岩村先生 岩村 勇 東京福祉専門学校 教務部長

- ・卒業生の中に、学生時代、情報士のテキストでライフプランを設定していくという課題にインパクトを受け、生活指導員として働く現場で、それを実践している方がいます。
- ・この報告を聞いて、学生が主体的に関われ、インパクトを感じられる授業カリキュラム作りを、今、講師と一緒に考えているところです。
- ・具体的には、体験的に、施設のイベントプロデュースなどを行い、地域の提携している施設に提案していけないものかと思っています。
- ・施設利用者のご家族向けに情報誌を作る体験を通して、情報士サイトの情報を使いこなす経験をさせたいと考えています。

生きがい情報士活動報告会(大阪)



山田 勇貴 さん

2006年
神戸医療福祉専門学校中央校
介護福祉科卒
社会福祉法人 甲山福祉センター
重症心身障害児施設砂子療育園勤務

武庫川市にある重度の肢体不自由及び知的障害が重複し、常時医療看護が必要な方のための施設で、家庭での養育・介護が困難な重度障害児(者)が入所しています。

喜びと生きがい

病状、障害の性質から病院として、同時に生活施設として個々の障害状況、能力に



松井 友里 さん

2004年3月
神戸医療福祉専門学校中央校
介護福祉科卒
介護老人保健施設 ライフ明海 勤務

介護老人保健施設における介護福祉士としての取り組み

西明石にあります介護老人保健施設ライフ明海で介護福祉士として働いている松井です。

要介護1～5の認定を受けておられる方々に対し入所・ショートステイのサービスを提供しています。また施設内には通所リハビリテーションいわゆるデイケアも入っており、近隣の在宅生活をされている要支援・要介護認定を受けておられる方々への日帰りサービスも提供しています。

介護保険における施設には主に私が勤務している介護老人保健施設いわゆる老健といわれる施設と介護老人福祉施設いわゆる特養といわれ

応じて、日常生活の指導援助、並びにサークル活動や、教育を実施しています。また、地域の在宅障害児(者)について短期入所及び通園事業、外来診療なども行っています。一人一人の可能性を大切に、喜びと生きがいのある豊かな自己実現の人生を援助するように心がけています。

家族との連携

父母、家族と連携し、その信頼関係の中で家族の抱えている多様な事情や願いを理解し、共に利用者のより良い生活と福祉の向上を目指します。ご家族の方とご利用者さんが一緒に過ごしてもらえるようにと日曜日によくイベントの企画をします。またご家族の方が身体的に精神的に負担を少なくするために色々な情報提供も必要となってきます。療育の実践と機能を、在宅障害児(者)とその家族に積極的に活用して頂くと同時に地域社会にも還元し、それを通じて、障害を持つ人も共に生活できる社会を築き上げています。

る施設があります。

老健は家庭復帰を目標に介護・看護・リハビリテーションを提供している施設です。在宅復帰を念頭においた介護を提供しています。

当施設は「住み慣れた地域での暮らしをサポートする」を合言葉に様々な職種の職員が連携を図っています。

生活リハビリ

数ヶ月前よりリハビリは訓練室ではなく利用者さまが普段生活されているフロアで行われるようになりました。その根本に生活リハビリの考え方があります。

週に1回ボランティアの方に来ていただき利用者さまに太極拳を教えていただいています。ゆっくりとした流れで座ったまま行える運動を中心に行っていただいております、利用者さまからも大変評判が良いです。

レクリエーション

レクリエーションではスタッフのギター伴奏に合わせ昔懐かしい歌を利用者さまと一緒に歌います。また変化の少ない施設での生活に利用者さまが喜んでいただけるよう、様々な取り組みを企画しおこなっております。

夏祭りや敬老祝賀会では、ボランティアの方や職員が催しを行い、懐かしい歌などを披露します。このほかにも不定期にボランティアの方々に協力していただきさまざまなイベントをおこなっています。

地域との連携

地域からボランティアの方や実習生を多く受け入れています。日常生活で話し相手や行事の時にお手伝いをお願いします。ご利用者が地域の方と一緒に楽しんでもらい地域との連携をとっています。こうして、幅広い要望や期待に応えられ、地域の資源としての役割を担える施設づくりを行っています。

療育の実践と機能を、在宅障害児(者)とその家族に積極的に活用して頂くと同時に地域社会にも還元し、それを通じて、障害を持つ人も共に生活できる社会を築き上げています。

現在、当園には重度の肢体不自由(大部分が立位・歩行不能)と重度の知的障害、さらにてんかんや視覚障害、聴覚障害を有するために、日常生活において全面的に介護を要する「重症心身障害児(者)」180名弱の入所者が、諸々の事情で家庭養育・介護が困難なために入所しています。ご利用者さんの皆さんの「生きがいとは何か」を考えて介護を行なっています。

「おかえり」と声かけ

このような取り組みを行い、現在、デイケアを利用しながら、在宅にて生活されています。デイケアから戻られた時、ご近所の方から「おかえりなさい」と声をかけていただけることの喜びを、本人は感じられています。又、身の周りのこともご自分でできるようになり、「帰ってきてよかった。」と嬉しそうに話されていました。

生きがい

最後に、利用者さまにとっての生きがいは何かを考える中で、私が思うことは、出来ないことばかりに注目するのではなく、ひとつでも多く出来ることをみつけ、それを伸ばしていけるようなかわり方をすることが利用者さまの生きがいに繋がるのではないかと思います。

また私が関わらせて頂いている利用者さまはほとんどの方が高齢ですが、高齢者というひとりで接するのではなく、趣味も、今までの生き方も、また性格も様々であるという事を十分考慮し、利用者さまひとりひとりに喜んでいただける、ケアやレクリエーションなどの取り組みを今後も行っていきたいと思います。

今回は介護老人保健施設での介護福祉士としての取り組みを紹介させていただきました。

生きがい情報士としてご活躍される皆様に現場で働いている介護福祉士の業務を少しでもご理解いただければ幸いです。

インテルが提供するインターネット・サービス「アラカイネット」

生きがい情報士が「使い方相談」

この発端は、昨年9月にインテル社から生きがい情報士をシニア向けインターネット・サービスで活用したいという話からでした。それが「アラカイネット」なるものなのです。その話を聞き、まず、その相談員となる生きがい情報士を募集したところ、10名近い応募者があり、早速12月から相談員としてのトレーニングを開始しました。



生きがい情報士という人材、その能力・スキルが評価され、生きがい情報士が「使い方相談」に起用されたということは、実に素晴らしいことで、その活躍ぶりに財団も大いに期待しています。いよいよ2月1日から、その使い方相談が稼働しました。生きがい情報士の皆さんもぜひアラカイネットをダウンロードして、その活躍する相談員の様子をぜひご覧ください。

アラカイネット「使い方相談」で生きがい情報士が担当すること

アラカイネットには、従来のヘルプデスクではなく、もっとシニアにやさしい視点で操作についてのわからない点を聞くことができるような「使い方相談」を備えたいという思いがあります。

従来のヘルプデスクは、ハードの相談はコンピュータメーカーに、ソフトの操作方法はソフトメーカーに問い合わせをしなければなりません。また、回答もコンピュータ用語が使われることが多く、コンピュータ初心者にとっては説明自体が判らないこともあります。

アラカイネットは、相談の電話をかけるという話を聞いてくれてそして疑問が解決できるという、なんでも相談のような形をとろうと考えました。専門的な相談の場合は専門の相談先を紹介し、アラカイネットの使い方はわかりやすい言葉でテレビ電話を使って対面のイメージで答えようというものです。

そこで、白羽の矢がたったのが生きがい情報士です。コンピュータ操作ができシニアの支援を行うという情報士のコア技能が、アラカイネットが目指すシニア向けの「使い方相談」を担当する人材にうってつけということになりました。

具体的な相談の場面で、相談内容を聞き取る時は、相談援助技術を生かすこととなります。もちろん、言葉遣いも丁寧になりやすく対応し、どのような支援が必要なのかを聞き取ります。これはニード分析ですね。

専門的な疑問の場合には、専門の相談先を紹介します。また、初心者特有の疑問には、わかりやすい言葉で説明を行います。コンピュータ用語はカタカナで聞きなれない言葉が多い上に、マニュアルの記述は(一昔前より)ずいぶんとわかりやすくなっていますが初めて読む人には、わかりにくいものです。それを、わかりやすい言葉で伝えることが求められています。

当然、回答用のデータ集を用意しておくこととなります。そのデータ集は、コンピュータ初心者シニアの視点で相談員となる情報士が収集しています。アラカイネット用の相談データベースですね。アラカイネットの使い方相談は、情報士のコア技能をフルに使って行うこととなります。

また、使い方相談には、アラカイネットの使い方以外の相談も来る可能性があります。生きがいづくりに関する相談には、答えられる範囲で答える用意もしています。とにかく気軽に相談をしてくださいというスタンスです。

生きがい情報士のコア技能を活かしながら人と人をつなぐ橋渡しをすること、これがアラカイネット「使い方相談」で情報士が担当することです。

シニアどころをくすぐるメニュー

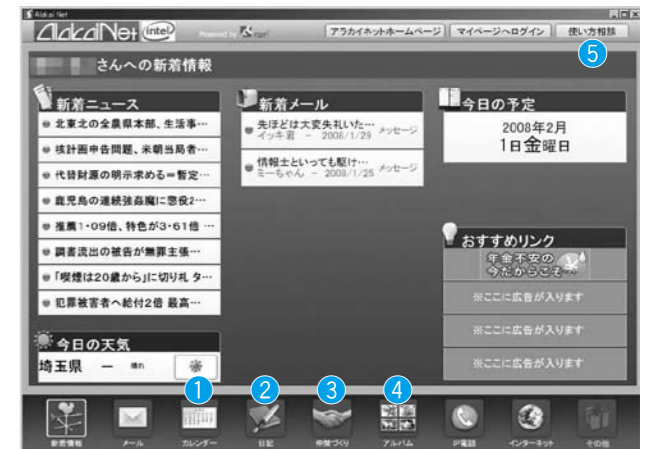
アラカイネットは、アラカイがハワイ語で「導く、ガイド」という意味の言葉で、ネーミングが大変いい感じです。また、シニア目線の目配りと、シニアどころをくすぐる気配が感じられるメニューも、始めさえすれば良いだけになっているので、「どうぞ」そんな感じが出ています。メールやIP電話などの機能もごくフツーにならんでいるところもいい感じなのです。

■ 主なメニューの紹介

- 1 スケジュール管理に役立つ「カレンダー」
- 2 ブログの部分は「日記」
- 3 いろいろな話題について自由に書き込みができるコミュニティは「仲間づくり」
- 4 写真などの画像が簡単に扱える「アルバム」
- 5 生きがい情報士が担当するヘルプデスクは「使い方相談」

アラカイネットは、ウェブサイト <http://www.alakainet.com/> より無償でダウンロードすることができます。

Windows Vista/XP に対応。ユーザー登録を行えば、すべての機能を無料で利用できます。



■ インテル2008年1月16日プレスリリース

アラカイネットでは、シニア世代のユーザーにも使いやすいように、文字の視認性、情報検索の操作性などに工夫が施されたユーザー・インターフェースを提供します。このインターフェースを通して、最新情報を簡単にチェックできるほか、見やすく配置されたボタンをクリックすることで、シニア世代のユーザーに役立つコンテンツへのアクセスを容易に行えます。また、生きがい情報士が、メールまたはIP電話やテレビ電話でユーザーの問い合わせに応える、「使い方相談コーナー」も用意されています。

アラカイネットの最新情報ページでは、ニュース、天気、登録者への新着メールなどがまとめて表示されており、各々の情報をひと目で閲覧できます。また、健康、買い物、お金など、シニア世代に身近なインターネット・コンテンツが、カテゴリごとにアイコンで表示されているので、興味のあるサイトへはクリック一つでアクセスできます。シニア世代のユーザーに関心の高い、ブログ機能やコミュニティ機能など、ユーザー参加型のコンテンツもサポートされています。さらに、アラカイネットは、指やペンで操作できるタブレットPCに対応しているため、キーボードやマウスの使用が苦手なユーザーは文字や数字を直接、手書きで入力することも可能です。

トップ画面に設置された「使い方相談」のアイコンからは、IP電話やテレビ電話、あるいはメールを使ったヘルプデスク・サービスを利用することができます。サポートは、財団法人健康・生きがい開発財団が認定し、コンピューターを使ってシニアに役立つ情報の収集と提供を支援する「生きがい情報士」が対応します。





フットセラピー講習会

開催日 : 平成20年1月20日(日)
会場 : 地域活動・相談支援センターかさい(東京都江戸川区)
講師 : 篠原 広美 様(株 リプレンスプラス代表取締役 ホリスティックライフコーディネーター)

私は3年前に生きがい情報士を取り、江戸川区の3障害を対象にした生活支援センターで働いています。「生きがい情報士」の情報発信の場となればと情報士同士の交流をしています。当センターの人気プログラムに利用者さんに体験していただくフットセラピーがあります。その参加者から「自分も習ってみたい」という声が上がりました。今回フットセラピー講習会を開催しました。財団から講師を紹介してもらい企画しました。受付が始まると地域の方に大反響で予定していた40名の定員が2日で全てうまりキャンセル待ちも20名近くいる状況でした。キャンセル待ちの方も「もし、次回も同じような企画を考えているのなら連絡してください」と殆どの方がおっしゃってくれ、あまりの反響の凄さに驚きました。

足裏マッサージの講習会は参加者同士でペアを組み、お互いにマッサージを実践する方式で行われました。参加者は「家に帰って、家族にやってあげよう」「これは、自分の足も自分でやるのね」等の声を聞く事ができ「あなたもやってみたら、気持ちいいわよ」と声をかけてくれる人もいました。

私はイベントを企画するのが今回初めてで、予約の受付の対応や企画の広報活動とわからない事だらけでした。「人が集まらなかったらどうしよう」「予約受付で不備がありトラブルがおきたらどうしよう」等と考えると本当に不安な日が続きました。当日も何事も無く無事に終わるよう願うばかり

でしたが参加者の反応が良かったので“ほっ”とすると同時に気がつく講習会を楽しんでいました。

今回、準備等は大変でしたが講習会は大変好評で終える事ができ私自身も多くの事を学びました。「足裏マッサージ講習会」の次回の企画を待っている人も多くいます、私自身も多くの事を学ぶので今後も継続していきたいと思っております。お近くの生きがい情報士のみなさん ぜひセンターにお越しください。

生きがい情報士 西園寺 弘久



平成19年度生きがい情報士教員研究集会

指定養成校の義務になっております主任教員実務研修会を今年度から教員研究集会として、広く主任教員、生きがい情報士講師の皆様にご案内します。

平成20年度からテキスト改訂に伴い生きがい情報士の最新カリキュラムを採用いたします。研究集会では、最新カリキュラムのポイントを3部構成で開催します。

主任教員、講師、学校代表者の皆様のご参加をお待ちしております。



日時: 平成20年3月1日(土) 13:30~17:00
会場: ベルエポック美容専門学校 第2校舎
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-57-6

研究集会プログラム

第1部	教科書改訂 主旨の理解(資格のコンセプト、時代背景) 他の資格、専門職との関係(ダブルメジャーの時代) データベースの使い方(コンピュータリテラシー) 資格の有用性、その他の活用事例等 資格取得のフレーム(マニュアルに基づく)
第2部	情報交換、グループワーク 懇親会
第3部	教育技法(シラバス、コマシラバスの作成) 実習内容(どこで、何を、どんな風に) 核科目と教え方 講義、演習の配分(授業体系の構成) 学生の動機付け 試験100%合格のために → 受験対策

生きがい情報士の あなたも取得できる 生きがい情報士講師

生きがい情報士を取得している方は、生きがい情報士講師へステップアップできます。今まで約7,000名の生きがい情報士が誕生し、その中の5名が生きがい情報士講師を取得しています。講師資格を取得すると養成校で教鞭をとることができます。また 財団主催の研修会等の講師ができます。是非挑戦してみてください。

「生きがい情報士」講師養成研修会のご案内

20年度からテキスト改訂に伴い新カリキュラムによる養成研修です。また講師の方々も執筆者が担当いたします。生きがい情報士登録者の方を対象に3日間の養成研修会を行い、資格審査試験をクリアした方を「財団認定登録講師」として認定し、生きがい情報士の養成に尽力いただくためのものです。ぜひご参加ください。

- 日程 平成20年3月7日(金)~9日(日)
(詳しいスケジュールはあらためてご案内します)
- 会場 東京医薬専門学校(東京都江戸川区東葛西6-5-12)
(東京メトロ東西線「葛西駅」より徒歩3分)
- 実施方法 講義・演習形式による研修と資格審査試験(知識問題・演習問題)
- 受講資格 パソコンの基本操作が出来ること
- 受講費用 ¥96,000(テキスト代、受験料を含む)
- 受講資格 生きがい情報士登録者・指定養成校主任教員・健康生きがいづくりアドバイザー
- 受講定員 20名
- 申し込み締め切り 平成20年2月22日(金)
- 申込方法 (1) まずは受講申込書にて事務局までお申込み下さい。
(2) 受講料入金依頼書を財団からお送りします。
(3) 受講料入金確認が揃った時点で正式申込となります。

カリキュラム

科目名	形態	時間	
生きがい総論	講義	2H	
余暇・趣味・生涯学習	講義	1.5H	
広報技術	演習	1.5H	
健康管理、福祉・生活支援	講義	2H	
ライフプラン技術	演習	1.5H	
就労・起業	講義	1.5H	
経済・金融	講義	1.5H	
社会参加、仲間作り・援助技術	講義・演習	2.5H	
コンピューター技術	演習	1.5H	
新カリキュラム改訂ポイント	講義	1H	
教育技法I・II・III	講義・演習	4.5H	
合計		21H	
認定試験	知識問題	択一式50問出題	1H
	演習問題	記述式で1問出題	1H



以上

生きがい情報士の登録更新が始まります。

今年度の登録対象者は、

更新：平成18年3月までに登録された方

再登録：登録更新を忘れていた方

今年度更新されると平成22年3月31日まで有効となります。

健康・生きがい開発財団は、生きがい情報士通信や支援活動の各種情報の提供をしています。インターネットが普及する中で情報が氾濫し、欲しい正しい情報を早く見つけ出さなくてはなりません。その情報が「生きがい情報データベース」を使うとすぐに見つけることができます。専門職をよりレベルアップさせるためにも生きがい情報士の様々な特典を活用してください。

登録更新料：10,000円(2年間)

登録受付期間：平成20年5月30日(金)

4月1日までに登録カードが必要な方は、3月3日(月)までに手続きを！
3月4日以降の受付については、4月以降の発送となります。

注意・受付期間(5月30日)を過ぎた場合は、今年度の登録はできません。

振込先：郵便振替 口座番号 00170-6-84354

財団法人 健康・生きがい開発財団

*同封の郵便振替用紙をご利用ください。

注意・振込みは、名前の前に必ず認定番号を！



生きがい情報士の特典

生きがい情報士には登録することでたくさんの特典があります。専門資格を生かすためにも生きがい情報士に登録して、仕事の幅を広げてください。

特典 ① 初年度認定登録料 20,000円

その後2年ごとに更新(更新料10,000円)

*資格は、永久資格です。更新を忘れての方は、すぐに再登録手続きをしましょう!!!!

特典 ③ 生きがい情報士通信など活動に必要な資料や教材等を得ることができます。

年間2回発行の情報士通信は、生きがい情報士として活動するための最新情報が掲載されています。

特典 ⑤ 生きがい情報データベースの最新動向(冊子)を取得できます。

特典 ⑥ 集会、研究会等へ参加することができます。

最新のテーマによる集会、研究会を開催しております。また、生きがい情報士同士の情報交換の場としても活用されています。

団塊の世代の退職期を迎え、これから益々中高年者の生きがい支援ができる“生きがい情報士”が必要となってきます。登録によって取得できる情報を大いに活用して活躍してください。

特典 ② 「生きがい情報士」(厚生労働省所管の財団認定資格)として公表して活動できます。

特典 ④ 生きがい情報データベースにアクセスし、最新情報を取得することができます。

生きがい情報データベースは、PCだけではなく携帯電話からもHPにアクセスできます。またデータベースは、随時更新しております。活用して最新情報を取得してください。

<http://www.ikigai-inf.com>



特典 ⑦ 講師養成研修会を受講し、生きがい情報士講師としての認定を取得することができます。

生きがい情報士講師として、母校で生きがい情報士の教鞭をとり、財団主催の講習会などの講師をすることができます。

生きがい情報士平成20年度活動予定

4月	新年度授業開講 登録証の発行(新規登録者、更新者)	1月下旬	合否発表・認定登録 登録更新手続き開始
10月	生きがい情報士活動報告会および指定養成校説明会 生きがい情報士通信発行	2月上旬	生きがい情報士通信発行
12月	認定試験受験申し込み	2月下旬	認定登録・登録更新締め切り
1月10日(土)	資格審査試験	3月7日(土)	教員研究集会
		3月中旬(3日間)	生きがい情報士講師養成研修会

編集後記

1月下旬からインテルのアラカイネットの学習会が始まり、毎日生きがい情報士の担当者が財団に顔を出すようになり、事務所も大変にぎやかになりました。「どんな質問が来るのだろう?」「こんな専門用語を並べたら中高年者は、チンプンカンプンね」などと言いながら、実は皆さんが悪戦苦闘中です。始めてのことだから大変だけど皆さんの明るさでファイト!

生きがい情報士通信 Vol.13

●発行日 平成20年2月

●編集発行 財団法人 健康・生きがい開発財団

〒112-0002 東京都文京区小石川5-2-2 わかさビル4F

TEL 03-3818-1451 FAX 03-3818-3725

URL <http://www.mmjp.or.jp/ikigai/>

E-Mail ikigai@z.email.ne.jp